

## もくじ

<b>1. 概要 .....</b>	<b>2</b>
1.1. BA-T500II CUSTOM から得られる情報 .....	2
1.1.1. ASB ステータス .....	2
1.1.2. インク ASB ステータス .....	2
1.1.3. メンテナンスカウンター .....	2
1.2. 開発言語 .....	2
<b>2. STATUS API の使い方 .....</b>	<b>2</b>
2.1. インストールとアンインストール .....	2
2.1.1. インストール .....	2
2.1.2. アンインストール .....	2
2.2. STATUS API の種類 .....	3
2.2.1. STATUS API の開始／終了 .....	3
2.2.2. ASB ステータスの取得 .....	3
2.2.3. メンテナンスカウンターの取得とリセット .....	3
2.2.4. プリンター情報の取得 .....	3
2.2.5. ドロアーの制御 .....	3
2.2.6. 復帰可能エラーからの復帰 .....	3
2.2.7. プリンターのリセット .....	3
2.2.8. 電源オフの前処理 .....	3
2.2.9. コマンド定義ファイル .....	3
2.2.10. ESC/POS コマンドの送信 .....	3
<b>3. MICR/SCANNER の使用 .....</b>	<b>3</b>
<b>4. APD4 リファレンス .....</b>	<b>4</b>
4.1. BiOPENMONPRINTER .....	4
4.2. BiCLOSEMONPRINTER .....	4
4.3. BiLOCKPRINTER .....	4
4.4. BiUNLOCKPRINTER .....	4
4.5. BiGETSTATUS .....	4
4.6. BiSETSTATUSBACKFUNCTIONEX2 .....	4
4.7. BiCANCELSTATUSBACK .....	4
4.8. BiRESETPRINTER .....	4
4.9. BiDIRECTIOEX .....	5
4.10. BiOPENDRAWER .....	5
<b>5. ログファイルの出力 .....</b>	<b>5</b>
5.1. ログファイルの設定 .....	5

## 1. 概要

Status API とは、Epson の TM プリンターのステータス監視 API です。Linux BA-T500II カスタム用の Status API は APD4 Status API のサブセットになります。本書は APD4 Status API からの差分について説明しています。

### 1.1. BA-T500II Custom から得られる情報

#### 1.1.1. ASB ステータス

印刷完了 / オフライン / 用紙切れ / カバーオープン / 電源オフ / エラー発生など、印刷アプリケーションに必要な情報です。これはプリンターから Status API に自動的に送信されます。

#### 1.1.2. インク ASB ステータス

サポートしていません。

#### 1.1.3. メンテナンスカウンタ

サポートしていません。

### 1.2. 開発言語

gcc 4.3.3 が必要です。  
g++ 4.3.3 が必要です。  
.NET はサポートしていません。

## 2. Status API の使い方

### 2.1. インストールとアンインストール

Status API はルート権限を持つユーザーがターミナル上でインストール／アンインストールします。以下にインストールとアンインストールのコマンドを示します。

#### 2.1.1. インストール

```
$ dpkg -i epson-stmapi-<version>.<architecture>.deb
```

#### 2.1.2. アンインストール

```
$ dpkg -r epson-stmapi
```

## **2.2. Status API の種類**

### **2.2.1. Status API の開始／終了**

APD4 と同じです。

### **2.2.2. ASB ステータスの取得**

以下の関数はサポートしていません。

- a. BiSetStatusBackFunction
- b. BiSetStatusBackFunctionEx
- c. BiSetStatusBackWnd

新しい関数 BiSetStatusBackFunctionEx2 が利用できます。

いくつかの ASB (例. ASB\_SPOOLER\_IS\_STOPPED) は送信されません。

### **2.2.3. メンテナンスカウンターの取得とリセット**

サポートしていません。

### **2.2.4. プリンター情報の取得**

サポートしていません。

### **2.2.5. ドロアーの制御**

APD4 と同じです。

### **2.2.6. 復帰可能エラーからの復帰**

サポートしていません。

### **2.2.7. プリンターのリセット**

APD4 と同じです。

### **2.2.8. 電源オフの前処理**

サポートしていません。

### **2.2.9. コマンド定義ファイル**

サポートしていません。

### **2.2.10. ESC/POS コマンドの送信**

BiDirectIO 関数はサポートしていません。

## **3. MICR/Scanner の使用**

MICR と Scanner はサポートしていません。

## 4. APD4 リファレンス

Linux 上でサポートしている Status API を示します。

### 4.1. *BiOpenMonPrinter*

APD4 と同じです。

### 4.2. *BiCloseMonPrinter*

APD4 と同じです。

### 4.3. *BiLockPrinter*

APD4 と同じです。

### 4.4. *BiUnlockPrinter*

APD4 と同じです。

### 4.5. *BiGetStatus*

APD4 と同じです。

### 4.6. *BiSetStatusBackFunctionEx2*

新しいパラメータを持つことを除き、BiSetStatusBackFunctionEx と同じ動作です。

#### 構文

```
BiSetStatusBackFunctionEx2(int nHandle,  
                           int (CALLBACK *pStatusCB)(DWORD dwStatus, LPVOID  
                           lpParam),  
                           LPVOID lpParam)
```

#### 引数

nHandle:	ハンドルを指定します。INT 型です。
int (CALLBACK *pStatusCB)(DWORD dwStatus, LPVOID lpParam):	コールバック関数のアドレスをセットします。
dwStatus:	Status API が保持している ASB ステータスが返されます。ASB ステータスは、4 バイトで構成されています。DWORD 型です。
lpParam:	コールバック関数内で使用されるユーザーがセットしたプリンターを扱うための値です。LPVOID 型です。

### 4.7. *BiCancelStatusBack*

APD4 と同じ動作です。

BiSetStatusBackFunctionEx2 によりセットした関数をキャンセルします。

### 4.8. *BiResetPrinter*

APD4 と同じです。

#### **4.9. *BiDirectIOEx***

APD4 と同じです。

#### **4.10. *BiOpenDrawer***

APD4 と同じです。

### **5. ログファイルの出力**

.NET はサポートしていません。

ログファイルの名前は epuras.log です。初期状態では /var/epson/epuras に保存されます。

#### **5.1. ログファイルの設定**

設定用のツールは提供していません。